

(報道各社への取材の御案内)



～来年は「明治 150 年」・・・明治のうきはを偲ぶ(第 2 回)～

## 文豪 夏目漱石が詠んだ明治の吉井

小説「吾輩は猫である」などの作品で知られる夏目漱石(1867-1916)は、熊本の第五高等学校英語教諭時代の明治 32 年 1 月 6 日、日田から筑後川を下り千年の渡し場から吉井に入り、札ノ辻本町辺りに泊まったと言われています。漱石は、当時の吉井ののどかな情景が偲ばれる俳句 2 句を詠んでいます。



### 「新道は一直線の寒さかな」

千年の渡し場に着いた漱石は正月の寒さのなか人力車に乗り、千年の溝口、能楽と抜け吉井の町中に向かったと言われています。(写真=漱石が人力車で通ったとされる千年地区)



### 「なつかしむ衾に聞くや馬の鈴」

馬の絵が描かれた宿屋の衾(掛け布団)を目にした漱石が、その時の心情を詠んだと言われています。(写真=漱石が泊まったとされる宿屋があった札の辻本町付近)

## 「夏目漱石うきは市足跡句碑」、「稲畑廣太郎句碑」除幕式

うきは市ふるさと創生個性あるまちづくり事業を活用して、俳句の創作活動を行う「やまたろ句会」により句碑が建立されるに当たり、ホトトギス名誉主宰の稲畑汀子氏も臨席され、除幕式が開催されます。

※稲畑汀子氏、廣太郎氏・・・明治時代、俳誌「ホトトギス」を主宰した俳人・高浜虚子の孫、曾孫

日時・場所: 12 月 11 日(月)

- ・午前 9 時から「夏目漱石の足跡記念句碑」(白壁交流広場、うきは市吉井町 1258-1)、
- ・午前 9 時 40 分から「稲畑廣太郎句碑」(吉井小学校前句碑通り)

●問い合わせ やまたろ句会(金子) TEL090-4994-5768

編集:うきは市総務課広報係(Tel.0943-75-4980)

※FAX を手にとられた方は、「うきは市ホームページ」掲載のカラー版を御覧ください→検索 うきはブランド通信

2017.12.4 発表/来年は「明治 150 年」・・・明治のうきはを偲ぶ(第 2 回: 文豪夏目漱石が詠んだ明治の吉井)